

## 『福山山岳会・ココダトレイル踏破ツアー・13日間』（健脚向き）

リーダー：大田祐介 ☎90-3175-2644 参加申し込み（一次）締め切り：3月6日

ココダトレイルとは、第2次世界戦時中に旧日本軍がパプアニューギニア（PNG）にあるオーストラリア軍の拠点・ポートモレスビーを陸路攻略の為に切り開いた、オーエンスタンレー山脈を越えるルートです。太平洋側の内陸の村ココダから、標高4千mのスタンレー山脈を越え（峠は2,200m）、首都ポートモレスビー30km手前のオワーズコーナーに至る、直線距離約60km、歩行距離約96kmの山岳トレイルです。

昭和17年7月から日本陸軍の福山歩兵第41連隊と高知144連隊を基幹とした南海支隊と、オーストラリア軍は、スタンレー山脈のジャングル地帯で激しい山岳戦をまじえました。この戦いでは日本側は約13,000人、オーストラリア側は約6,000人以上の犠牲者を出したと言われています。南海支隊はポートモレスビーを目前としたイオリバイワまで前進しますが、弾薬・食糧の補給が続かず無念の撤退となりました。クムシ川の激流をイカダを組んで下ったりしながら最終的に昭和17年11月にギルワ陣地に包囲され50日間持ちこたえますがマラリヤや飢餓により「地獄の戦場」と形容されました。

トレイルの沿道では、当時の陣地跡や遺棄された兵器など戦争の爪あとが残され、うっそうと茂ったジャングルの下には、今でも多くの日本兵の遺骨が眠っています。オーストラリア人のガイド「ココダスピリット社」のウエイン・ウエザーロール氏は「戦争は国同士が行ったのであって、兵士は国から強制的に派遣されてきただけだ」と理解を示し、旧日本兵らの慰霊巡拝にも同行し、各地で祈りをささげる日本人の姿に心を打たれたそうです。「彼らは国のために戦ったヒーロー。家族の待つ日本に帰らないといけない」。ウエザーロール氏は今も帰郷がかなわない旧日本兵に心を寄せています。福山山岳会のメンバーにより68年前に福山歩兵第41連隊が戦ったルートを辿る今回のツアーには大きな意義があるのではないのでしょうか。



## <スケジュール>

7月16日(土) 福山発 21:05 成田発(エア・ニューギニア)  
17日(日) 4:30 ポートモレスビー着・ゲートウェイホテル泊  
18日(月) 初日 8:00 ポートモレスビー(飛行機)→ポボンデッタ着、車でギルワ陣地(41連隊最後の陣地)の野戦病院跡訪問→トレッキング出発地のココダへ(戦争記念館見学)  
19日(火) 2日目 ココダ→デネキ  
20日(水) 3日目 アローラ村・激戦地イスラバ戦場跡  
21日(木) 4日目 イオラクリーク・ティンプルトンキャンプ場  
22日(金) 5日目 ナドゥリ村  
23日(土) 6日目 エフォギ村  
24日(日) 7日目 ブリゲートヒル陣地跡→ハムツリ村  
25日(月) 8日目 激戦地イオリバイワ戦場跡  
26日(火) 9日目 終着地オワーズコーナー、ポートモレスビー・ゲートウェイホテル泊  
27日(水) 14:35 ポートモレスビー発(エア・ニューギニア) 20:15 成田着 東京泊  
28日(木) 朝一番で靖国神社参拝、遊就館(資料館)見学、千鳥ヶ淵国立墓苑参拝後、16時頃福山着

## <費用>

成田空港往復(新幹線): 約 40,000 円

ニューギニア航空: 75,000 円(早割)

ココダスピリット社への支払: 286,400 円(3,580 ドル) 以下、含まれる費用

ポートモレスビーのホテル2泊分(17日&26日)、ニューギニア国内移動費用(飛行機含む)トレッキング中の食事・ガイド費用一式、各人に個人用テントのレンタル代含む

12人のグループとしての料金であり、参加者が少なければ若干増額する見込みです。

個人ポーター: 52,000 円(650 ドル)

最終日東京泊: 約 10,000 円

総合計: 463,400 円 ※オーストラリアドル=80円として計算

## <個人装備>

夏用シュラフ、シュラフカバー、マット、着替え他通常の小屋泊まり山行の装備と同等です。

個人ポーター(650ドル)を雇えばテントや個人装備を運搬してもらえ、テント設営もしてもらえます。

